IWATE MEDICAL UNIVERSITY NEWS

岩手医科大学報

2015. 9 No. 468

発行者―理事長・学長 小川 彰



建設が進むエネルギーセンター (関連記事P2)



特 集———

エネルギーセンター新築工事の進捗状況について

岩手県立療育センター:となん支援学校との一体整備

ピックス――― 盛岡さんさ踊りに参加しました

キッズキャンサーセミナーが行われました

― 「歯学部未来学講座を終えて」



エネルギーセンター新築工事の進捗状況について - 企画部施設課 -

矢巾キャンパスC敷地(附属病院移転敷地)において、昨年11月に着工致しましたエネルギーセンター新築工事につきまして、現在までの工事経過と進捗状況をご報告致します。

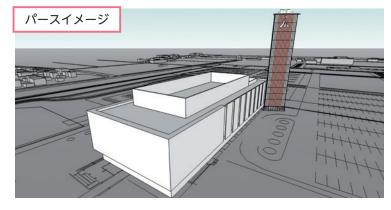
施設概要

工事の進捗状況などについてご報告する前に、エネルギーセンターの概要について改めてご説明します。 附属病院の移転に先行して整備を進めているエネルギーセンターは、附属病院建設予定地の北側に位置し、 病院で使用する全てのエネルギーを供給するほか、隣接するドクターへリ基地や同一敷地内に建設される 県立療育センター、県立盛岡となん支援学校に対して電気を供給します。

このエネルギーセンターには、国内最大級となる地中熱利用設備などの再生可能エネルギーシステムの

ほか、国内初となる制御方法を用いたコージェネレーションシステムも導入し、災害などにより外部からエネルギーの供給が途絶した場合でも、最低3日間は自立供給が可能となる日本屈指の分散型エネルギーシステムが構築されます。

また、エネルギーセンター内には災害時に 避難者を受け入れる避難所を設置するほか、 停電時には電源としても活用可能な電気自動 車が配備されます。



工事経過(進捗状況について)

エネルギーセンター新築工事は、昨年の11月から工事を着手しました。始めに建物の位置出し、掘削作業を行い、特殊な鋼管杭(つばさ杭)を使用した基礎杭打設作業を行いました。

また、杭打設作業に併せて地中熱採熱管の敷設作業も行いました。



掘削作業(平成27年2月撮影)



鋼管杭先端(つばさ杭)



基礎杭打設作業(平成27年3月撮影)



地中熱採熱管敷設作業(平成27年4月撮影)

鋼管杭による基礎杭打設作業は5月末には完了し、6月からは建物の基礎部分となる基礎耐圧盤と建物 地下のコンクリート打設作業が始まりました。



基礎耐圧盤 配筋・コンクリ打設 (平成27年6月撮影)



地下躯体 配筋・コンクリ打設 (平成27年6月撮影)

現在、基礎耐圧盤や建物地下部分のコンクリート打設が完了し、1階部分のコンクリート打設等の作業 が進められています。



1階床配筋・コンクリ打設(平成27年7月撮影)



1 階壁立上り 配筋・コンクリ打設 (平成27年8月撮影)

以上、現在までの工事経過と進捗状況につきまして、簡単にご報告させていただきましたが、この工事 のほか、病院建設予定地では造成工事も併せて進められており、平成31年度の病院移転に向けて様々な 工事が着々と進んでいます。

なお、来年度には新病院の本体工事が着工の予定です。皆様には、より一層のご協力を宜しくお願い致 します。



岩手県立療育センター:となん支援学校との一体整備 一 企画部総合移転計画事務室 —

岩手県立療育センター及び盛岡となん支援学校(仮称)について

本学附属病院移転敷地に整備される予定の岩手県立療育センター(以下「療育センター」)は、病院や医療型障がい児入所施設等の複合施設として、治療のほか、機能訓練、生活訓練、相談支援等を行い、障がい児及び障がい者の自立した日常生活や社会生活を支援することを目的とした施設です。

また、併設する岩手県立盛岡となん支援学校(仮称)(以下「支援学校」)は、主に身体に不自由のある児童生徒を対象とし、小学部・中学部・高等部及び寄宿舎を有する特別支援学校です。

現在、療育センターは盛岡市手代森に施設を有し、県内の障がい児療育の支援拠点として多くの役割を担っておりますが、超重症児等の受入れなど新たなニーズに対応する

ため、今回本学附属病院移転敷地内に支援学校と一体的に整備することにより、医療・福祉・教育の密接な連携のもと、機能・体制強化を図ることを目的として移転改築整備を行うこととしたものです。

移転後は、超重症児等の入院・入所や外来の受入れ体制の充実を図るとともに、NICUの利用患者を受け入れる後送病床としての機能を拡充し、高度な医療機能を有する本学附属病院との連携による高度小児医療提供体制を構築することを計画しております。また、高次脳機能障がい等の専門性の高い支援を必要とする障がい者に対し、良質な社会リハビリテーションを提供する拠点として、今後もその重要な役割を果たしていくことが求められています。

整備規模

- ●岩手県立療育センター鉄筋コンクリート造 地上3階 12,643.31㎡
- ●岩手県立盛岡となん支援学校(仮称) 鉄筋コンクリート造 地上3階 9,276.62㎡

移転改築後の主な機能

- ●肢体不自由児病床……………定員30人(現定員60人)
- ●重症心身障がい児病床……定員 20 人 (新設)
- ●一般病床 (NICU 後送病床機能等) …定員 10 人 (新設)
- ●医療型児童発達支援センター……定員 20 人
- ●児童発達支援事業・生活介護事業…定員 15 人
- ●診療科目の充実(耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科を新設)

整備スケジュール(予定)

平成 27 年度 —— 着工

平成 29 年度 —— 開所・開校



完成イメージ図

新任教授の紹介

産婦人科学講座

板持 広明 (いたもち ひろあき)

昭和39年11月11日 鳥取県米子市生まれ



研究テーマ

- ·婦人科腫瘍治療
- ・抗がん剤耐性機序の解明とその克服

主な著書論文

・卵巣癌に対する mTOR 経路の阻害は c-Jun の増加を介してエトポシドの殺細胞効果を相乗的に増強する

(Clin Cancer Res 2011; 17: 4742-50)

・卵巣明細胞腺癌に対するチェックポイント阻害剤を用い たシスプラチン耐性の克服

(Int J Gynecol Cancer 2014: 24: 61-9)

・線維芽細胞増殖因子受容体2は卵巣明細胞腺癌の予後に 関与するとともに新規治療標的となり得る

(Int J Gynecol Cancer 2015; 25: 570-6)

趣味

旅行、写真撮影

教職員への自己PR

平成27年本学への赴任に伴い盛岡の地に参りました。これまで婦人科腫瘍学を中心とした教育に携わるとともに、婦人科癌患者の予後改善を目指して診療や研究に従事して参りました。今後は子宮頸癌に対する妊孕性温存手術の導入や、難治性卵巣癌に対する新規治療法の開発に取り組んで参りたいと考えております。また、学生や若手医師が産婦人科診療に魅力が持てるように、先進的で幅広い教育をしていく所存です。何卒よろしくお願いいたします。

経歴

平成2年 鳥取大学医学部医学科 卒業

同産科婦人科入局

平成9年 鳥取大学大学院医学系研究科博士課程 修了

平成 9 年 三原赤十字病院産婦人科 副部長 平成 11 年 鳥取大学医学部附属病院 助手

平成27年7月 現職

地域医療薬学科

買(大

(たかはし ひろし)

昭和35年10月10日 秋田県秋田市生まれ



研究テーマ

- ・「災害医療の教育プログラム」の開発
- ・「医療人としての人材育成プログラム」の開発

主な著書論文

- ・薬剤師業務の基本 [知識・態度] ~薬局管理から服薬 指導,リスクマネジメント,在宅医療,後発医薬品,病棟 業務まで(新ビジュアル薬剤師実務シリーズ)単行本 -2013/9/27 上村 直樹(監修),平井 みどり(監修),下 平 秀夫(編集),青山 隆夫(編集)
- ・薬局実務実習における"共に育つ"評価のポイント (調剤 と情報 2010 年 4 月号 (Vol.16 No.4) p406-409)
- ・現地での取り組みと医療支援を通じて感じたこと (月刊 薬事 2011 年 9 月号 (VOL.53 No.9) 103-107)

趣时

魚釣り、種々のワークショップへの参加、旅行

教職員への自己PR

秋田から参りました。病院勤務、卸そして薬局勤務と、これまで約30年間薬剤師業務を行ってきました。10年前から薬学教育改革のお手伝いに関わり、今回歴史ある岩手医科大学で仕事をさせていただくこととなりました。とてもうれしく思っております。医療人として地域医療に関心を持ち、薬剤師としてこれからの地域医療を支えていくための人材育成に関わりたいと思います。また東日本大震災の経験を基に、災害医療における教育プログラムについても構築していきたいと考えております。人と人を繋いだり、仲間と楽しく学ぶ経験をさせたりすることから、学生には薬剤師としてだけではなく人としての幅広い成長も期待していきたいと思います。新しい医療チームの形ができることを夢見ております。どうぞよろしくお願いいたします。

経歴

昭和 58 年 東京薬科大学薬学部 卒業 昭和 59 年 東京医科大学病院薬剤部入局

平成4年 (株)小田島入社

平成6年 (株)サノ・ファーマシー入社 平成26年 (有)ミヨシファーマシー入社

平成27年7月 現職

理事会報告 (7月定例-7月27日開催)

1. 教員の人事について

外科学講座 教授 佐々木 章 (前 同講座 准教授) 口腔医学講座予防歯科学分野

教授 岸 光男(前 同分野 特任准教授)

(発令年月日 平成27年8月1日付)

教養教育センター化学科 教授 中島 理

(現 同学科 准教授)

教養教育センター外国語学科英語分野

教授 ジェイムズ ホッブス (現 同分野 准教授) (発令年月日 平成27年10月1日付)

- 2. 学長選任規程及び同実施細則の一部改正について
- 3. 看護学部設置の基本方針について
- 4. 附属病院移転事業に係る見積依頼業者の選定について

TOPICS

盛岡さんさ踊りに参加しました



世界一の太鼓パレードと称される「盛岡さんさ踊り」が8月1日(土)から4日間にわたり開催され、本学は初日のパレードに参加しました。

当日は、パレード開始前に本学附属病院外来玄関前で出陣式が行われ、患者さんに演舞を披露しました。その後のパレードでは、小川理事長を筆頭に200名以上の職員・学生が中央通りの約1キロの区間を練り歩き、盛岡さんさ踊り第3番の「栄夜差踊り(えいやさおどり)」を披露し、沿道に詰め掛けた観客や大学関係者からの歓声に応えていました。なお、本学の出場は、今年で連続34回目となります。



がんプロ国際シンポジウムが 行われました

8月6日(木)、ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィングにて、がんプロ国際シンポジウムが行われました。



ハーバード大学 波多 准教授の特別講演

「『イメージガイド下がん診断・治療と医用ロボットの展望』日本に於けるがん治療への応用~」をテーマに、イメージガイド下がん診断・治療分野の国内外で活躍されている先生に、日本の婦人科がんにおける当該分野の展望について、ご講演をいただきました。

また、特別講演ではハーバード大学医学部 准教授 波 多 伸彦 先生をお招きし、「ハーバード大学医学部関連病院における画像誘導手術に関する臨床研究プログラムと産学連携活動」と題した講演が行われました。

フリーディスカッションでは活発な質疑応答や意見交換が行われました。

キッズキャンサーセミナーが行 われました

8月8日(土)、矢巾キャンパス災害時地域医療支援教育 センターにて、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 主催のキッズキャンサーセミナーが行われました。

このセミナーは、「がん」についての基本的教育を行い、疾患への理解を深めるとともに、受講生家族への情報の浸透を図ることを目的に行われたもので、岩手県内の小学校5・6年生30名並びにその保護者が参加しました。

基礎講義の後に行われた体験セミナーでは、鶏肉を使った 外科手術体験や、トレーニングマシンによる内視鏡の体験、 全身麻酔体験が行われ、参加した小学生は、普段体験すると のない医療の器具等に興味津々の様子で、受講後のアンケー トでは「がんのことや手術をどのようにしているのかなどが 分かって楽しかったし、勉強になった。」といった感想が寄 せられました。



写真上:基礎講義 写真下:外科手術体験

大学公用車として電気自動車が 納車されました

8月18日(火)、大学公用車として日産自動車製の 電気自動車リーフが納車されました。

電気自動車は、エネルギーセンターの建設整備の一環として導入されたもので、内丸キャンパス、矢巾キャンパスにそれぞれ1台配備されました。

1回の充電で約220kmを走行可能であるほか、非常時には電力を供給する役割を有しています。

ご利用の際は、庶務課(内線3213)までご連絡 ください。



左:矢巾配備車輌 右:内丸配備車輌

マツモトキヨシ様による東日本大震災津波 復興支援奨学金授与式が行われました

8月22日(土)、矢巾キャンパス東研究棟1階会議室において、(株)マツモトキヨシホールディングス様による本学薬学部学生への東日本大震災津波復興支援奨学金の授与式が行われました。

授与式では、(株)マツモトキョシホールディングス執行 役員人事部長の小部 真吾 様より、薬学部5年 沢口 航也 さん・和山 健吾 さんに奨学金が授与された後、お二人か ら決意表明が述べられました。



授与される沢口航也さん

矢巾キャンパスで矢巾町総合防 災訓練が行われました

8月22日(土)、矢巾町の防災訓練が矢巾キャンパスを会場に行われました。

この訓練は、矢巾町地域防災計画に基づき、防災関係機関と地域住民が一体となって実践的な訓練を行うことで、災害時の迅速な対応と地域住民の防災意識の高揚を図ることを目的に行われたものです。

当日は、矢巾キャンパスで地域住民向けの講演会実施中に 震度6強の地震が発生したことを想定し、避難誘導活動、救助活動、支援物資配送訓練などが行われました。



はしご車による救出訓練

第58回岩手恵眼会総会が行われました

8月22日(土)、歯学部4階講堂にて、岩手医科大学 眼球銀行登録者の会である第58回岩手恵眼会総会が行 われ、岩手恵眼会の佐々木達人会長をはじめ、岩手医大 眼球銀行総裁の小川学長ら約150名が出席しました。

総会では、献眼物故者に黙とうを捧げたほか、 緩和 医療学科 木村 祐輔 教授による「がん治療と緩和ケア」 と題された講演会が行われました。



左から: 髙橋事務局長、黒坂眼科学講座教授 小川学長、佐々木岩手恵眼会長

平成23年10月に内科学講座循環器内科分野が発足しました。旧第2内科から心血管・腎・内分泌内科(中村元行教授)と分離した形式ですが、カンファランスから人事に至るまで、旧来の形を崩さず同一組織に近い形で運営しています。7名でスタートした組織も、2015年時点で総勢40名を超える大所帯に成長し、循環器医療センターを拠点にアクティブに活動しております。

虚血性心疾患を中心とした急性期医療を主たる業務とし、経カテーテル大動脈弁留置(TAVI)をはじめとする最新のカテーテル治療も積極的に取り組んでおります。また、将来成長が期待される分野(例えば左心耳閉鎖術や最新の補助循環)を見極め、先行投資と導入準備を進め、「東北ではここでしか受けられない最新医療」の提供体勢の構築を目指しております。また、心血管リサーチセンター(伊藤セン

ター長)を開設し、6名の有能なラボ・スタッフと国内・国際の多施設共同研究を主導的に遂行しています。快活な人材を多く抱え、忙しくも楽しく診療しています。

(教授 森野 禎浩)



平成24年の講座再編に伴い、歯科補綴学講座の3分野(有床義歯補綴学分野、冠橋義歯補綴学分野、 口腔インプラント学分野)が統合され、補綴・インプラント学講座となりました。現在の講座員は、近藤尚知教授をはじめとする教員21名、大学院生13名、研究員11名の計45名という大所帯となりました。

教育面では、8名の教員が歯学部教育改革により 設置された、学生指導に重点をおいたチューターを 担当しております。臨床と研究に関しては多岐にわた り、歯を喪失した患者さんに対する、入れ歯、かぶ せ物、インプラントにより、咬合を回復する治療に加 え、短期間で治療可能なCAD/CAM機器による最新 テクノロジーを導入した治療法の研究にも注力してい ます。また、医科の各科と連携した摂食嚥下リハビ リテーションとスポーツ歯学、さらには組織再生と新 規生体材料の開発に関する研究にも取り組み続けて います。

一般歯科治療はもとより、口腔インプラント、摂 食嚥下、顎関節および脳機能関連まで、咬合・咀嚼 と身体機能に関するあらゆる知識と治療技術の修得 を目標として、医局員一同日々研鑽しております。

(特任准教授 小林 琢也)



お知らせ

「岩手看護短期大学」の学納金減免について

本学専任職員のご子弟が岩手看護短期大学に入学の場合、学納金を減免いたします(平成28年4月1日施行)。 なお、詳細につきましては、企画部看護学部設置準備事務室(内線7022・7023)までお問い合わせ ください。

編集委員コーナー№1「大学周辺のお店めぐり ~内丸 ちきゅうや~」

職員の皆さんは忙しい毎日のなかで普段どんなお店に足を運んでいるのでしょうか。今月号から「大学周辺のお店紹介」などを不定期に連載していく予定です。第1回目は内丸キャンパス近くの「ちきゅうや」さんです。

「ちきゅうや」さんは 2011 年 6 月にオープンしたインドカレーのお店です。オススメのメニューはキーマカレーやバターチキンカレーにナンとチャイが付いた日替わりランチ (980 円) です。営業時間は昼の部が $11:30\sim15:00$ 、夜の部が 17:00

~23:00 です。夜の部の日替わりではマンゴープリンがオススメとのことです。またランチタイムにはテイクアウトのメニューもあって、チキンカレーセット (780円) が人気です。

お店の場所は内丸キャンパスの図書館向かいの テンロードビル2階です。たまにはインドカレーの ランチなどいかがでしょうか。

(編集委員 佐藤 仁)



《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 菊池 初子 影山 雄太 江刺家和恵 松政 正俊 佐々木さき子 齋野 朝幸 米澤 裕司 小山 佐々木忠司 薫 藤本 康之 畠山 正充 佐藤 仁 大須賀志穂 成田 欣弥 武藤千恵子 山尾 寿子 野里三津子

編集後記

いよいよ秋も深まってきました。食欲の秋、読書の秋、そして実りの秋ですね。今月号では矢巾キャンパスC敷地に整備されるエネルギーセンターと岩手県立療育センターの進捗状況が特集記事として掲載されています。大学一丸となって取り組んでいる新病院移転事業が具体的な形となって実ってきました。新病院への移転も着々と具体的な形が見えてくる様です。

また今月号から新しい試みとして「編集委員 コーナー」を掲載しています。大学近くのお店紹 介など柔らかくて親しみやすい記事を掲載する予 定です。大学職員の皆さんにオススメの情報が ありましたら編集委員までお知らせください。

(編集委員 佐藤 仁)

岩手医科大学報 第468号

発行年月日 平成27年9月30日 発行者 学長 小川 彰

編 集 岩手医科大学報編集委員会 事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111(内線7023) FAX. 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印 刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7 TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

歯学部 未来学講座を終えて

歯学部改革プロジェクト委員会 委員 (歯科保存学講座う蝕治療学分野 講師) **浅野 明子**

平成27年7月31日に、三浦廣行副学長・歯学部長主催の公 開講座『岩手医科大学歯学部未来学講座』が開催されました。

現在、歯学部ではハーバード大学歯学部と連携し、歯学部 改革プロジェクト委員会を立ち上げ、歯学部改革を進めてお ります。このプロジェクトは、学長顧問である永井成美ハー バード大学歯学部准教授(本学12期)を中心に、教育、臨床、 研究における将来のリーダー育成と新しいシステムを目指して おります。また、今年は歯学部創立50周年という節目の年と いうこともあり、今の歯学部の状況のご報告と、これからの 歯科医療界を担う方々にむけて、この未来学講座を開催する 運びとなりました。

当日は、19時からの懇親会に始まり、100名を超える参加者が集まりました。小川彰理事長・学長の他、ハーバード大学歯学部ジョン・ダシルバ副学部長にもご臨席をいただき、多くの先生方と交流を深められました。ダシルバ先生は、大変日本酒がお好きということで、美味しい日本酒をたくさん堪能されている様子で、大いに盛り上がった懇親会となりました。

その後、20時から講演会を開催いたしました。最初に小川学長より、これからの岩手医科大学の在り方や、東北の医療の中心となる総合医系大学の歯学部として、より一層の努力を希望するとお話されました。

続いて、三浦副学長・歯学部長より『歯学部改革担当副学 長その役割と責任』と題して、改革が進行している現在、意 識改革が必要であること、教員一人一人が責任を持って教育 に取り組むよう、熱く語られました。

最後に、ジョン・ダシルバ先生より、歯学部改革について、 永井先生から話があった時は女性がこのプロジェクトをすることはとても困難と考え、はじめは反対であったという、思いがけない裏話に会場が和んだ後、永井先生と岩手の先生方の努力により歯学部の改革が進んでいることを嬉しく思うこと、これからの岩手医科大学の発展にむけてサポートすることをお話して下さいました。

3人の先生方のメッセージに引き続き、永井先生より講演が行われました。最初に、改革の一環として開始する『岩手医科大学歯学部 Study Abroad Program』について発表がありました。このプログラムは"世界に通用する歯科医師の育成"のミッションを実現するため、グローバル化に対応できる国際

左:野田歯科医療センター長 右:ハーバード大学 ダシルバ副学部長

的視野を持つ学生、大学院および若手・中堅教員の育成を目 的としています。このプログラムの設立によって、学生、研修 歯科医師、大学院生、若手教員の留学が可能となります。こ れにより学生、若手の歯科医師が国際経験を積むチャンスが 広がることは間違いないでしょう。

続いて、永井先生の研究である『家庭用3次元色彩的 初期虫歯検知テスト』について講演して下さいました。この研究は、化学色彩反応により、家庭で初期虫歯を検知できる、デバイスフリーの3次元むし歯発見テストの開発というもので、今は商品化に向けて研究をすすめているということで、我々にとってもとても興味深い内容でありました。さらに3名の女性研究者による録画講演が行われました。



ハーバード大学 永井 准教授

今回の講演会の内容は、すべて興味深く、参加した先生方も熱心に傾聴しておりました。ハーバード大学歯学部では、ビジネススクールと共同で研究をすることで、研究したものを商品化するのではなく、市場のニーズにマッチした研究展開の助言をもとに、将来を見据えた研究を推進することが出来るそうです。小川学長も最後に追加コメントされ、基礎医学と臨床医学のより親密な関係、特に岩手では、薬学部とのコラボレーションによって新たなトランスレーショナルリサーチが展開されることを熱望されておりました。

今後、岩手でも若い先生が"Study Abroad Program"に参加することでグローバルな視点で活躍できる人材が育成されることと確信しました。



講演会の様子